高度地区および特別用途地区の都市計画を定めました

高さの最高限度を色分けした図

市では、良好な市街地環境の形成を目指し、平成23年4月に改定した「武蔵野市都市計画マスタープラン」で示された建築物に関する規制について、さまざまな角度から検討し、1月の都市計画審議会の審議を経て、2月25日に都市計画を定めました。

今回導入された制度は、建築物の高さの最高限度を地区ごとに定める「高度地区」と、市内の大規模な学校や医療施設などの土地利用の維持・保全に関する「特別用途地区(特定土地利用地区)」です。

高度地区は、駅前の商業地から周辺の低層住宅地にかけて、建物の高さが徐々に低くなっていくようにするもの。突出した高さの建築物が建つことによって発生する日照阻害や建築紛争などを抑制し、街並みの維持、住環境の保全を目指しています。

特別用途地区は、大規模な学校や医療施設などが現在の土地利用を継続できるように定めたもの。万が一の転出の際には、周辺市街地との調和を図れるように制限を設けています。

詳しくは、市ホームページ(都市計画書などを公開)をご覧ください。まちづくり推進課の窓口でもご案内しています。

問:まちづくり推進課　☎60-1872

副市長と監査委員が選任されました

本市の副市長と監査委員が、昨年11月27日および12月9日に開かれた市議会本会議の同意を得て決まりました。

井上良一副市長が再任、任期満了により退任した会田恒司副市長の後任には五十嵐修監査委員が選任されました。これに伴う監査委員の後任には、髙橋良一教育部長が選任されました。任期は井上副市長が12月1日から、五十嵐副市長・髙橋監査委員が12月12日からの4年間です。

副市長
五十嵐(いがらし) 修(おさむ)

東京外国語大学外国語学部卒。昭和52年武蔵野市役所就職、交流事業担当部長、環境生活部長、総務部長を経て、平成24年1月から監査委員。61歳。

副市長
井上良一(いのうえりょういち)

都立農林高校卒。昭和42年武蔵野市役所就職、都市整備部長、企画政策室技監、都市企画専門委員を経て、平成21年12月から副市長。65歳。

監査委員
髙橋良一(たかはしりょういち)

中央大学法学部卒。昭和53年武蔵野市役所就職、財務部長を経て、平成24年4月から教育部長。59歳。